

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第131号

ななえ古写真物語

VOL. 131

謎の社殿

大中山神社か？
大正時代か？
大中山地区？



当館に限らず、多くの博物館には、時期不詳・場所不明なる古写真が多く所蔵されていると思う。整理するつもりが、そのままだったり、そもそも、資料なのかもわからない状態で、長い時間を薄暗い棚にしまわれていることもあるだろう。いいわけだが、今回紹介する写真も、そんな一枚で、資料の再整理を行っている最中に見つかり、新規登録した写真である。

手がかりは、三嶋神社関係と括られた中に入っただけで、他は何もわからず、恥ずかしい話、資料名も「三嶋神社か？」という謎かけとしていた。

ところが、改めてよく見たら、背景がややフラットで、木々の間からは、わずかに山の稜線が見え、見通しの良い立地に社殿が造営されていることに気付いた。少なくとも、三嶋神社の境内には、文化年間に、倉山卯之助が植えた杉林があるので、別の社殿であると考えるのが妥当である。さらに、戦時中の三嶋神社の社殿とは、屋根の形も違うことに気付いた。では、一体どこの社殿なのか？そして、時代はいつなのか？そもそも七飯町にある神社なのかである。

ふと、社殿の左手前に一基の石碑があることに気付いた。どうも見覚えのある形である。

あいまいな記憶をなぞって見たら、どうやらそれは、大中山神社の境内に今もある、関定吉の記念碑であると思われた。

関定吉は、嘉永6年に越後から北海道にわたり、安政6年には中島辰三郎とともに、中島郷（現在の中島地区）の開拓を指導。その後、箱館戦争に参加。開拓使時代には役人となり、幌泉（現在のえりも町）の開拓に従事したが、明治4年に53歳の若さで亡くなった。石碑は、定吉の死から40年後の明治43年11月4日に、大中山神社の境内に建立された。

一方、大中山神社は、大川村の三嶋神社と中島郷の稲荷神社を合併し、明治43年に現在地に移転。大正5年には、三嶋神社から大中山神社に改称し、現在の社殿は昭和12年に新築したと「七飯町史」に記載されている。確かに、写真の社殿は、今の大中山神社と異なる。

仮に写真にある石碑が、私の推測通り、関定吉の記念碑であれば、この写真は、新築される以前の大中山神社を写したもので、また、石碑の建立年代から考えると、明治43年から昭和12年までに撮影された可能性が高いのだが、果たしてその真偽は如何に。情報をお持ちの方にご教示願いたい。

10日

この日は友の会のギャラリートークと乙部町高齢者大学の皆さんの団体見学がありました。開催中だった『文化財鑑賞のすすめ』では、近年問われている見学の際のマナー向上のための注意するポイントと文化財の鑑賞を楽しむ方法を解説しました。考古遺物から刀、絵画、民族衣装まで、それぞれの展示物に適した保存・修復法があります。地道な作業の繰り返しによって、公開、展示される博物館の資料を身近に感じ、他館で見学したときにも、解説した知識を参考に活かしていただけたら幸いです。



27日

この日、ジュニア探検クラブでは、昔のおやつと題し、七飯町民文化祭へ参加しました。自分たちでこねたタネで、せんべいを焼いたり、石臼で大豆を挽いたり、郷土カルタとりをしたりと、当館所蔵の民具を用いた各種体験コーナーを、所せましと歩きました。

便利になった時代。刃物を使った工作や自分たちで描いた絵を印刷する謄写版など、アナログな体験は、子どもたちにとって初めてに近い経験だったようです。



実とタネの季節です。

秋が深まり、森や林、歩道にまで、実やタネが足元に落ちていきます。歴史館では、数年にわたり、野草園で育成した植物から、町内外で採集したものなどを、学習サービス室で展示しています。ハーバリウムと呼ばれる液体標本や、ピンに詰めたものは、手にとって観察することが出来ます。植物の生き残り戦略に従い、意味のある実やタネの形。身近な植物をよく観察するとその構造に驚きます。図鑑や関係する本でより深く知るのもおすすめです。



12月の予定

1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月
11	火
12	水 夜の博物館
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土 ジュニア探検クラブ
23	日 天皇誕生日
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土
30	日
31	月 年末年始休館日

12月31日～1月5日は休館です。

文字をたのしむ

町内の風景を撮影中に見つけた味のある踏切の文字。レトロ感が漂います。



編集後記 ~tawagoto~

この間、ある学校に招かれ、歴史の講話をさせて頂いた。私の時は、放課後に行っていた掃除が、中休みに行われていたり、採光がふんだんになされ明るい校内。しかも、廊下までもがあたたかい。否応なしに、時代の流れを知らされた。さて、講話の開口一番で子どもたちに、明治時代の前は何時代かな？とたずねたら、昭和！！との声。時代が変われども、まだ私が子どもたちに、教えることが出来る分野があり、なんだか安心した。(やまだひさし)

Pichart

～ピチャリ～

第131号

平成30年11月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp